

# 令和4年度 岡山県立勝間田高等学校 学校評価書

校長 中西 崇 ⑩

## 1 自己評価

I 評価結果  
(別紙参照)

II 分析・改善策

1 学力向上

- ・基礎・基本の徹底
- ・専門知識・技術の習得
- ・ICT・学び合いによる学習活動の充実

今年度も家庭での学習習慣の定着、ユニバーサルデザインを意識した授業改善を推進し、生徒の主體的・対話的で深い学びの実現に取り組んだ。

また、今年度入学生から1人1台端末が導入され、Google Classroomを中心に多くの教員が積極的にICT機器を活用し、授業はもちろん、教育活動のさまざまな場面において効果的な活用が広がっている。

専門教育については、さまざまな地域連携活動に取り組むことで、生徒の自己理解、進路意識、地域理解を高めることができ、生徒にとって魅力ある専門教育を実践することができた。

(1) 家庭学習について

4月の家庭学習時間調査の結果は、家庭学習時間が0時間の生徒が36.5%であった。その後、考査ごとに調査を実施し、1学期中間考査前では、20.1%、1学期期末考査前では17.4%と減少した。9月の学習時間調査では、学習しないとの回答が、36.7%(前年比-10.1%)で、目標の40%を切った。考査ごとの調査では、家庭学習時間が0時間の生徒は、平均約23.6%(前年比-12.2%)と、わずかに目標の20%を切ることができなかつたものの改善した。長期休暇期間中など、課題の内容・分量を考慮して課したが、提出する生徒と未提出の生徒の固定化の傾向がある。提出している生徒でも取り組み方には差ある。

(2) 授業改善について

ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組は、年間を通じて授業づくりの指標とした。「分かりやすい授業が多い」生徒回答70%(前年比-3%)、「自分のコースの学習内容に興味がある」生徒回答76.9%(前年比+8.1%)。また、6月と11月に勝間田コミュニケーションウィークを実施し、ICTを活用した授業など、情報共有や授業改善に向けての意欲の向上を図ることができた。また、ICTを効果的に活用した授業についての校内研修を行い、授業の導入や振り返りにおける活用方法を共有することができた。

2 生活習慣の確立

- ・ルールの遵守
- ・挨拶の励行
- ・自己管理の向上

生徒課を中心に学校全体で生活指導に取り組んでおり、生徒の生活態度は落ち着いてきている。近年の傾向としては暴力的または反社会的な事案は減少傾向にある一方、軽微な違反(スマホ使用違反・服装違反等)が目立つ。担任・学年団を中心とする日常的な指導が定着し、生徒課主導の「服装・頭髪点検」は節目に実施した。

身の回りの整理整頓及び自分の持ち物の管理については、昇降口の使用状況は、私物が置かれることはほぼなく、改善された。ロッカールームの使用状況については、ロッカーの破損、ゴミの放置等が見られ、改善の必要がある。日々の清掃の状況については、多くの生徒が主体的に清掃に取り組めるようになってきているが、一部の生徒が清掃に参加できていない、清掃の仕方が徹底できていない、等の問題があった。

環境美化委員による清掃活動、環境美化委員・生徒会・農業クラブによるあいさつ運動を実施することができた。生徒が主体的に行動し、学校や地域をより良くしようとする気運が高まっている。来年度は、より一層生徒の主体的な活動を推進し、母校に「誇り」を持つ生徒を育成していきたい。

規則正しい生活習慣の確立、保健指導については、健康観察の実施や朝食の摂取状況の把握、保健に関わる啓発を継続しておこなった。現在においても感染症対策としてマスクの着用、手指の消毒など意識している生徒が多い。一方、昼食時の会話など気になる行動もある。引き続き啓発活動を行っていく必要がある。また、健康観察についても回答率が低くなってきているので対策を考えたい。

### 3 進路実現

- ・キャリア教育の充実
- ・学校生活(部活動・資格取得等)の充実

外部人材を活用した「ジョブフェア in 勝間田」や就職準備セミナー、1年生全員がクラスごとに分かれて、クラス当たり2社見学をする企業見学を実施することができた。また、各系列の関連産業や企業へのインターシップを希望者に対して実施することができた。その結果、各系列の関連産業への就職率、関連上級学校への進学率が高まった。(農林業関連 37%、自動車・機械系関連 87.5%)

3年生については担任の先生の生徒・保護者への助言等の元、本人の希望や納得のいく進学先・就職先に概ね落ち着くことができたが、就職内定率は3月1日時点で96.3%と、一部の生徒については、3月1日までに就職内定を得ることができなかった。中学校の時に特別支援学級(知的・情緒)に在籍していた生徒や障害者手帳を所持している生徒に対して、職安等と連携しながらの進路についての相談・助言や、早い段階から就労体験を重ねながら就職先を決定する手法の確立が急務である。

### 4 情報発信・広報

- ・地域人材の活用
- ・SNSの活用

中学校卒業見込者の第一次進学希望状況調査(12月1日現在)106名、同二次調査(1月10日現在)100名の希望者であった。中学校での進学説明会、オープンスクール、本校での学校説明会を実施し、学校PR活動を行った。

地域協働活動コーディネーターが多くの教育活動に参加し、収集した情報をホームページやSNSで発信することができた。Instagram等のSNSは、タイムリーに発信することができた一方、ホームページについては、タイムリーに発信することができなかった。今後は、よりタイムリーに情報発信できる体制を地域協働活動コーディネーターと協力して構築していきたい。

## 2 学校運営協議会委員(評価者) <※校長を除く>

水嶋 淳治	勝央町 町長
神田 寿則	勝央町教育委員会 教育長
竹内 由明	勝央町立勝央中学校 校長
小宮山美子	勝英農業普及指導センター 所長

竹久 伸二	JA 晴れの国岡山勝央事務所 副所長
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	岡山NPOセンター 代表理事
青山 千香	(株)ニッチ 営業部部長
野上 和宏	野上石油(株) 代表取締役社長 (勝央中学校学校運営協議会 委員)
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長 (勝間田小学校学校運営協議会 委員)
佐乗 充倫	地域協働活動コーディネーター
安東 厚生	岡山県立勝間田高等学校 同窓会長
永禮 淳一	岡山県立勝間田高等学校 元PTA会長 (永禮ファーム 経営者)
角南 博文	岡山県立勝間田高等学校 PTA会長

### 3 学校関係者評価

第1回 令和4年 5月24日 (火) 13:30~16:00

【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について (説明)
- 会長選出
- 本校の現状と課題 (説明)
  - (1) 令和3年度の教育活動
  - (2) 令和3年度学校評価書
  - (2) 令和4年度学校経営計画等
  - (3) 令和4年度 of 主な行事について
- 質疑応答
- 意見交換

<委員からの意見等>

- TV放送の「情熱大陸」でも取り上げられた樹木医やアーボリストは保護者の関心も高いのでは。このようなメジャーな人に授業や話をしてもらうのもいいのでは。目玉も必要。県南でも (学校説明会などを) 開催して、県南の生徒にも勝間田高校を知ってもらえれば。
- 今まであるものも大切にしていくことは重要。子どもたちが夢を持つコース名や中学生が魅力に感じる内容もあるとよい。今やっている教育活動をSNSなどで発信し、中学生たちに勝間田高校の存在を知らせることが重要。スクールミーティングでは生徒が主体的に前向きに考えている。「行ってよかった学校」と在校生・卒業生がPRしていければ。あいさつもできている。地域からも (勝間田高校のイメージの) 見直しが必要。
- 実践して身に付けることが大切。今、6次産業化がブームである。生徒たちも、地元のものや自分たちが育てたものを加工して商品を作り名前を考え原価計算して売る、といった一連を体験するのもよいのでは。また、食品系列とビジネス系列が協同で授業を行うなど、多様な系列がある強みを生かしていくのがよいのでは。
- 津山圏域・美作圏域の民間企業とつながって取組をする。民間企業も「勝高の生徒がやっている」「勝高ブランドである」というのが地域からの信頼度が高まるので、つながりがほしい。学校と民間をうまくつなげると、地域への浸透性が出てくるのでは。
- 専門的な学びを活かせる就職先を探しアピールしていくと、保護者も安心するのでは。専門的なことを学んだ後にこんなところに行ける、というのがあれば魅力になると思う。
- 勝間田高校は地域によっては通学困難である。英田地区からは、今は (NPO 法人が) 何とかバスを動かしているが、公共交通がない。新聞でも目にするが、姫新線が赤字でなくなる危機もあると聞く。姫新線がなくなると津山から生徒は来られなくなる。策を考えることが重要だと考える。

第2回 令和4年11月28日 (月) 13:30~16:00

### 【主な内容】

○授業参観及び施設見学

○報告

- (1) 学校経営・組織編成に関する事項
- (2) 予算執行に関する事項
- (3) その他関連する事項
- (4) 地域協働活動コーディネーター活動報告

○協議（グループ協議と共有）

「勝間田高校と地域の共栄について」

<委員からの意見等>

●生徒の学びが地域のために貢献できることだと考える。現在も行っているノースヴィレッジや役場での植栽、小・中学校との連携、アグリ魅力化プロジェクト、さらにボランティア活動など若い力を発揮してほしい。

現状の問題点としては、まず生徒募集である。遠いところから入学を希望しても寮がないので諦めざるを得ない。また、進級できない生徒がいるということ。さらに、弓道部以外の部の活性化を望む。今後へ期待したい。

●勝間田高校は、県北の人からは悪いイメージで、県南の人からは知名度がなく知らない。PR活動をさらに進めることが必要。そのために、中学生へのPRとして、チラシなど紙で配ることで保護者も知ることができる。また、教育の見える化・可視化を進めるために、小中学校との交流をさらに増やしていくこと、さらに、専門性を生かして企業との協働事業をすすめることや、スマート農業など現代に求められることを取り入れ、こんなことが学べる学校なのだとアピールすることも必要との意見が出た。

●学校の設備を地域へ開放したり、地域の特産品開発をしたりと、ものづくりプロジェクトを進めてはどうか、また、姫新線存続のためにも勝間田駅のPRなど勝央町と共に盛り上げるためのイベントを企画することが地域の活性化にもつながるのではないか、そして、就職先や進学先を一般の人へ知ってもらうために、校内で配布している進路便りをデジタル化して公開し、バックナンバーをいつでも見られたり発信したりしてはどうかとの意見が出た。さらに、地元企業に協力してもらい、インターンシップや企業見学をもっと盛んにし、生徒全員が見学に参加したり、インターンシップにも何回でも参加したりと、地域と共に人材育成が進められるとよい。また、例えばゴミ拾い大会など、地域と生徒と共に企画してボランティア活動をし、それをニュースなどマスコミに取り上げてもらうとよいのでは。そして、地域の困りごとに高校生が対応する取り組みなどもしていくのもよいのではないか、との意見が出た。

第3回 令和5年 2月27日（月）13：30～16：00

### 【主な内容】

○令和4年度 学校運営に関する評価

- (1) 教育活動報告
- (2) 学校評価

○令和5年度に向けた学校運営基本方針協議

- (1) 令和5年度学校経営計画書
- (2) 令和5年度主要事業予算
- (3) 令和6年度入学生教育課程

○三者協定に基づく、学校運営協議会とリブランディング会議の関係について

<委員からの意見等>

●高校と地域で創る未来の学びプロジェクトの準指定校も来年度までということは地域協働活動コーディネーターの配置も来年度までとなる。地域協働活動コーディネーターのおかげで情報発信が毎週されている。外部から見ても強みだと感じる。今後、教育の強みをどう伝えていくか。伝えないと、何をやっているか知らないで入学してくることになる。県や町の子

算措置が必要である。志願者を集め、どう教育し力をつけていくか。生徒募集のための情報発信として、「何をやって、どんな子どもたちが育っているか」を伝えていく必要がある。

- 生徒募集が徐々に改善が見られ、ほっとしている。入試が終わった後で改善が進んだのかを総括し、来年度以降重点化していくことが必要である。公式なものからうわさまで、いろいろな情報に生徒は敏感である。よくない情報については特に敏感である。よい形での改善を望む。
- 受験者数増は先生方や生徒の頑張りからである。校長先生は、ぜひ褒めていただきたい。そしてさらに頑張ってもらいたい。

#### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

##### 1 学力向上

- ・家庭での学習を推進し、生徒の自主的・主体的な学習への取組を研究、実践。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した専門知識・技術の向上。

##### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の深化、基本的な生活習慣と安全な生活の確立。
- ・生徒会活動と部活動の充実。
- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

##### 3 進路実現

- ・進路の活動を通して、主体的に進路決定できる力の育成。
- ・キャリア教育の充実・学校生活の充実。

##### 4 情報発信・広報

- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等、学校情報の発信。
- ・福利厚生・PTA行事等への情報発信。
- ・地域協働活動コーディネーターとの連携。地域人材の活用。
- ・教育活動の見える化。